

一般社団法人長浜青年会議所 2019年度 事業報告書

総括概要

本年度、第64代理事長 中村和彦理事長のもと
基本方針 「万里一空」

懸命に生きる日々の積み重ねこそが未来を創る
理想を掲げ 自らを信じ行動しよう

- 運営方針
- 湖北都市圏創造構想の集大成に向け全メンバーで総力を挙げ取り組もう
 - 今を懸命に生き自らの成長に努めよう
 - 青年らしい行動を起こし地域からの信頼を得よう
 - 仲間と熱い議論を戦わせ会員同士の絆を育もう
 - 第49回滋賀ブロック大会の意義を理解しメンバー全員で成功に導こう

重点事業報告

2019年度会員旅行 Continue to grow ～見つける！俺たちのone-piece～

4月6日（土）～4月7日（日）に、2019年度会員旅行 Continue to grow ～見つける！俺たちのone-piece～を愛知県蒲郡市で開催させて頂きました。1日目はラグーナビーチでトレジャーハンティングを実施しました。ビーチに隠されたお宝を全員参加で探し当てました。夜はラグーナテンボス内の「変なホテル」に宿泊しました。「変な」とは「変わり続ける」という意味で、最先端の恐竜ロボットが接客をしてくれ、未体験のワクワクを感じることができました。

2日目は株式会社ラグーナテンボス様から「ラグーナテンボス再生に向けて」と題してご講話をして頂きました。ラグーナ蒲郡からH・I・Sグループが引き継ぎ、ラグーナテンボスとなる過程や、H・I・Sグループ澤田社長の経営理念、再生にあたってのオンリーワン戦略など、非常に勉強になる講話でした。その後、「委員会対抗 KIZUNA ポースクエスト」を行いました。ラグーナテンボス内でONE PIECE キャラクターとなった会員交流委員会メンバーを見つけ、一緒に写真撮影をするミッションをクリアしながら最終ゴール地点（サウザンド・サニー号）に向かいました。

今年度の会員旅行は、40名以上のメンバーが参加する笑顔の絶えない旅行となりました。2日間のプログラムを通じて、メンバー全員の融和と成長の糧につながり、本年度の活動を共に行うための団結力を養うことができた会員旅行になりました。

6月公式訪問例会 滋賀ブロック協議会公式訪問懇談会・懇親会

6月10日（月）グランパレー京岩にて公益社団法人日本青年会議所近畿地区滋賀ブロック協議会役員団の皆様をお招きし長浜青年会議所6月公式訪問例会並びに滋賀ブロック協議会公式訪問懇談会を開催させて頂きました。

冒頭、滋賀ブロック役員団及び長浜青年会議所役員紹介に引き続き、田中会長の挨拶から始まり、日本青年会議所及び滋賀ブロック役員団の活動について説明を聞ける大変貴重な機会となりました。そして長浜青年会議所中村理事長から2019年度の長浜青年会議所の基本方針説明があり、湖北都市圏創造構想に基づき各会員が担っている役割を滋賀ブロック役員団の皆様にご説明させて頂きました。

意見交換会では、「高め合せ！進取の気性討論会」と題して委員長がどこに重きを置いて活動しているかについて意見を交わして頂きました。事前の自己紹介シートで、これまでの活動、運動の内容を十分に理解した上で質疑応答が繰り広げられたことで、本筋からそれる事無く限られた時間内での活発な議論を円滑に行う事が出来ました。また各委員長が中央の演台で堂々とした姿勢で熱い議論を交わしたことで委員長の熱き想いをメンバーの方々感じて頂く有意義な懇談会となりました。

例会後の滋賀ブロック協議会役員団の皆様との懇親会では滋賀ブロック役員団の方々を歓迎し長浜青年会議所の意気込みを表現したオープニングの太鼓から始まり、滋賀という同じ故郷を思う同志と共に膝を突き合わせながら滋賀の明るい未来の実現について大いに語り合いました。



湖北都市圏創造構想推進事業 Vision16 Go to The Future!! ～未来への扉を開こう！！～

7月14日（日）びわ文化学習センター リュートプラザにて「Vision16 Go To the Future!! ～未来への扉をひらこう!!～」を開催させて頂きました。

2019年度は湖北都市圏創造構想運動最終年度として、社会を創造する人材を育成する教育を地域に波及させるべく運動を展開してまいりました。社会が高度化・複雑化していく中で社会を創造する人材を育成する教育体制の確立の為に、調査研究及び事業の構築に取り組みました。

本年度はまず過去4年間の事業を検証するなかでVision16教育の認知度を長浜市米原市両教育委員会に確認し、この教育の浸透度を測ったうえで体制確立の実現可能性を調査しました。各年の事業内容には評価をいただいていると確信しこの教育が湖北独自の教育文化になり得るためには、前年度からの引継事項である人材・予算の拠出体制を明確にし、学校の教育現場だけでは成しえない教育の形を、我々主導で明確に示したうえで全国に発信する必要があると結論付けました。

当日の事業では、湖北の中学生を対象に、地元で活躍している企業様の体験に基いた、学校では聞くことができない貴重なお話を聞きました。地元で憧れを持つことが出来る、新たな考えを持って貰うことで、自分の将来を考えるきっかけ作りになったと思います。38名の事業参加があり、各企業様の挑戦と失敗・成功の話を書き、その後エドテック（EdTech）の体験をしました。エドテックは最先端の教育ツールで上野賢一郎財務副大臣、経済産業省 サービス政策課長（兼）教育産業室長 浅野大介氏のご協力のもと、滋賀県初上陸で体験させて頂きました。エドテック体験は一般の方にも公開しましたので、沢山の方にご来場いただき、大盛況でした。事業の終わりには今日の体験を踏まえて、自分の未来年表を完成させ、沢山の人の前で発表をしました。教育関係の方や、行政の方も来ていただき、非常に評価して頂きました。また、お昼ご飯は「こほく職×食マルシェ」で、湖北で活躍している飲食店様に出店をして頂き、一般のお客様も含めて沢山のご来場がありました。

また事業後も長浜市教育委員会が長浜市に対し次年度予算に教育インフラの整備に関し 予算要求されるなど、今年度のみならず過去4年間の我々の青少年育成運動に評価を得ている裏付けだと考えます。

しかしながら両市教育委員会、中央官庁、地域内外の企業にVision16の理念や教育体制の必要性に賛同を得て実行委員会の組織及び事業実施までは実現したものの、明確な教育プログラムは見出せず湖北独自の教育文化の確立には至らなかったと考えます。



湖北都市圏創造構想推進事業 新湖北グランドデザイン実現プロジェクト ～テクノロジーと共生するまち「Society5.0社会」の実現～

8月10日（土）臨湖にて新湖北グランドデザイン実現プロジェクト～テクノロジーと共生するまち『Society5.0社会』の実現～を開催させて頂きました。

湖北都市圏創造構想最終年度となる今年度は、過去4年間の運動で創り上げたびわ湖の活用を中心としたグランドデザインをブラッシュアップさせ、地域に発信し浸透させるべく運動を展開してきました。さらに、多くの方々に共

感を得ていただくために、グランドデザインの大きな全体像と経済効果や課題がわかりやすい小さなグランドデザインの提案を行うことが重要であると考えました。調査研究を重ねる中で、人々に選択される都市へと成長するためには、少子高齢化や人口減少などの現代の社会背景を捉えながら課題解決を進めると同時に、若者が寄り付くまちでなければならないと考えました。そこで着目したものが、society5.0社会と新産業の創出、IT関連企業の誘致でした。これらの考えをびわ湖の景観、交通の利便性、企業、教育機関が密集し、発展途上である田村町周辺へ取り入れることが、湖北全体に好循環を生み出すと考え、グランドデザインを描きました。事業では交通の利便性と自然景観を活かしIT企業の誘致に成功した白浜町役場の事例や若者ベンチャー企業のスタートアップを後押しする株式会社リバネスの事例などを紹介し、新湖北グランドデザインの有効性を市民や行政関係者へ訴えたことで、グランドデザインのもと両市が一体となりまちづくりを展開していくことが理想であることを共感していただきました。新湖北グランドデザインは田村町周辺整備基本構想の議題にも取り入れられ、単なる発信だけでなく、関係者と共にグランドデザインについて深く議論する機会が生まれました。

本年は新湖北グランドデザインとして世に発信したことで、長浜米原両市が一体となってまちづくりを展開する機会が高まったものの、足並みを揃え行動を起こすところまでには至りませんでした。5年かけて取り組んでも長浜青年会議所が考えた独自のグランドデザインにしかならず、両市のまちづくりの指針にはなりません。これには、既に両市に総合計画があることや、自治体の壁、予算、訴求力不足があったと考えます。



湖北都市圏創造構想推進事業 LOVE FOR KOHOKU いいね！が集まる#湖北八景

8月24日（土）豊公園と湖北八景各所にて「LOVE FOR KOHOKU いいね！が集まる#湖北八景」を開催させて頂きました。

今年度まちづくり委員会では、湖北八景を湖北のシンボルとするため湖北八景の魅力を発信するためのツールの作成及び新たな独自の価値を湖北八景へ付加し、地域内外へ発信することを目的に活動してきました。

調査研究において、湖北八景の各箇所に湖北八景を象徴とするものがなく、湖北八景そのものの魅力や成り立ちといった内容を常に発信し続けるツールがない、さらには、湖北八景各々に魅力はあるが、その魅力を上手く活用することが出来ておらず、経済的な賑わいを起こせていない、といった課題が抽出されました。

その結果から、湖北八景の魅力を再度分析するために、地域の人々を巻き込みその人々しか知らないような内容を抽出しました。そして湖北八景の魅力を最大限引き出した各箇所の説明、及びその付近の更なる魅力を掲載する媒体、さらには湖北八景がただの景観ではなくこの地域の活力として幅広く活用できる湖北八景の象徴となるツール、「湖北八景全書」を作成しました。さらには、各所の人々が湖北八景に対し誇りを持って、更なる活力に繋がる「湖北八景宣言書」の作成を行いました。この「湖北八景宣言書」は滋賀県知事及び両市長承認を頂き、滋賀県や両市が湖北八景に対し関わりを持たせることが出来ました。

これらを使い、湖北八景に対する強い思いを持った地域の人々、行政と共に行った事業へはおおよそ2000名の地

域内外の人々に参加して頂き、湖北八景を大きく発信することが出来ました。さらに地域の人々には各所のそのものの魅力を湖北八景で繋げるにより経済的な活用方法を強く認識してもらいました。これらの運動により、滋賀県及び長浜市、米原市が湖北八景を強く認識したことで今後行政が広く活用することとなり、「湖北八景全書」が地域の人々の象徴となったことで、湖北八景は地域の共有財産となり、湖北のシンボルとなりました。以上のことから、湖北八景が地域の共有財産であり、湖北のシンボルであることで選択される都市への第一歩を歩み始めたと確信します。



第49回滋賀ブロック大会長浜大会

10年ぶりの主管となる第49回滋賀ブロック大会長浜大会を9月14日(土)に開催いたしました。本年は、「踏み出せ JAYCEE! 新たな時代を創る冒険を いま始めよう!!」をテーマに、記念事業、大会式典、卒業式懇親会の3つの事業を実施しました。

記念事業では、長浜市庁舎浅井支所前駐車場で、「第49回滋賀ブロック大会長浜大会記念事業～滋賀だからえきすば2019 with SDG's～」と題し、県内11青年会議所の活動エリアより、それぞれ2つずつ遊びやモノ作りなどの体験ブースと飲食店舗の体感ブースを設営しました。さらに、ステージプログラムにて、湖北のよさこいダンスチームやコーラス合唱団などに公演いただき、会場を大いに盛り上げていただきました。青年会議所の活動紹介パネルも設置し、当日ご参加いただいた一般参加者と県内メンバーを合わせた1,000人を超える方々に、滋賀県内各地の資産や青年会議所の魅力を感じていただきました。

大会式典では、「第49回滋賀ブロック大会長浜大会 大会式典」を浅井文化ホールにて開催しました。ご来賓には、長浜市長を始めとする湖北近隣の関係諸団体、議員の皆さま、日本青年会議所の副会頭や近畿地区協議会の役員、歴代ブロック会長や長浜青年会議所の特別会員をお招きしました。多くのご来賓の方々にご臨席いただき、2019年度の滋賀ブロック協議会の活動や褒賞申請を通じて各地青年会議所の活動を報告しました。

卒業式大懇親会では、史上初めて卒業式と大懇親会を同時に開催しました。イキサッカースタジアムにて、「第49回滋賀ブロック大会長浜大会卒業式～卒業生の門出を祝う 大花見大会!!～」を開催しました。秋の夜空のもと、フットサルコート一面に敷いた莫座、ご卒業生一人ひとりの功績を讃える桜のハンドアート、2階席と繋がる巨大ステージ、会場を盛り上げるオープニング、湖北こだわりの食材を提供する手づくりの屋台、それらを提供する長浜青年会議所メンバーのホスピタリティなど、長浜青年会議所ならではの規格外の設えと運営が実施できたと考えます。また、卒業式と大懇親会を同時に開催したことで、ご卒業生と1年間先頭で引っ張っていただいた理事長やブロック会長へ感謝を伝える素晴らしい機会となりました。

3つの事業を1日の中で同時に開催したことで、多くのメンバーに数々の負担をかけてしまったことも事実であり、事業実施が危ぶまれる場面もありました。そのようなギリギリの瀬戸際に立たされても、第49回滋賀ブロック大会長浜大会を開催できたのは、部会長、事務総長を始めとする全てのメンバーが投げ出さずに最終最後までやり遂げていただいたおかげであり、それこそが本年の最も尊く大切な成果であると確信しております。



褒賞申請

本年度褒賞特別委員会では、一般社団法人長浜青年会議所が行ってきた事業や活動の整理、検証を行い、申請活動を通じて私達の運動を広く発信する事を目的として褒賞申請を行いました。申請業務を進める中で、それぞれの運動の内容や進捗状況を見つめ直すことが出来、委員会メンバーにとっても非常に良い機会となりました。さらに、各地の青年会議所の運動と比較する機会も多くあり、長浜青年会議所の運動の良い点、不十分な点なども学ぶことが出来ました。滋賀ブロック協議会では、見事準グランプリを獲得することが出来、今後の運動を展開する活力に感じることができたと考えます。



2019年度家族会 トレジャーハンターグリーンパークツアー ～私たちだけの宝を探し出せ～

10月6日(日)、会員交流委員会主管の下、グリーンパーク山東にて、2019年度家族会トレジャーハンターグリーンパークツアー～私たちだけの宝を探し出せ～を開催させて頂きました。まず『後だしで負けてね!ジャンケンばんばん!!』で盛り上がりました。後出しでジャンケンに負けるのは意外に難しく、脳内年齢の若い子供たちは楽勝でした。メインイベントのトレジャーハンターグリーンパークツアーでは子供たち・奥様たちが考えたお題、質問を瓶に詰めた宝をパーク内に隠し、メンバー達が一生懸命探し当てました。探し当てたメンバーがお題に答える形で日頃の感謝の意を伝えました。メンバーにとっても、日頃のJC活動を一旦忘れて家族と共に過ごす有意義な時間となり、家族との絆をより一層深めて頂く事ができました。



2019年度FTセミナー 令和の時代を創る力～まちを回すペダルになろう～

11月9日(土)に2019年度FTセミナー 令和の時代を創る力～まちを回すペダルになろう～を湖北地域一帯で開催させて頂きました。

本年度新入会員指導委員会では、青年会議所の活動の中でまちづくりの最前線に関わりながら自らの視野と視座を高め、明るい豊かな社会の実現に向けて動きだせる素養を養ってきました。事業内容としては、事前に「醒井61マルシェ」と題して醒井の地で事前事業を行い、FTセミナーまでにマルシェを通してまちにどのような変化を起こすことができたのかを検証し発表させていただきました。また、醒井～木之本にかけて自転車サイクリングを行いながら、各所に設けたチェックポイントにて新入会員が考える新たなまちの魅力(特徴、名産品など)や課題を調べて発表を行いました。最後に「青春の居酒屋」として事業で感じた事、思った事を発表する場を設けました。新入会員とメンバーが一日を共に過ごし、事業を達成した喜びを分かち合いました。

